

## 2018 年度 10 月 定例観察会報告書

(グループ「わ」と合同開催)

日 時	2018 年 10 月 20 日 9:30~12:30	作 成 10/20
探 鳥 地	菊水山(神戸市)	記 録 熊 谷
参加人数	在校生 1 年~3 年 11 名 グループ「わ」13 名	顧 問 2 名 相 談 役 1 名 総 計 27 名 天 候 晴 れ
観察コース	神鉄鈴蘭台駅 ⇒ NTT管理車道 ⇒ 頂上付近の休憩所で鳥合わせ・昼食(解散)	
観察概要	<p>「菊水山にムギマキが入った」——この情報は愛鳥家の間で駆け巡った。当然、20 日の探鳥会で最大の狙いである。大陸北東部で繁殖し、東南アジアで越冬するが、その途中の渡りで六甲山系に立ち寄ったものと思われる。案の定、NTT管理車道沿いの観察ポイントには愛鳥家が集まり、カメラの放列。7日の下見会では姿を見ることが出来なかったが、「きょうこそ」と祈るような気持ちだ。</p> <p>管理車道入り口から600m、標高 322 m 辺りからムギマキの好物・カラスザンショウの実が目立ち、鳥の声、糞も目につくが、肝心のムギマキはなかなか姿を現さない。ムギマキの気持ちになってカラスザンショウの実をほおぼしてみる。「山椒は小粒でもピリリと辛い」そのもので、いつまでも舌先がヒリヒリする。鳥と人間の味覚は随分、違うことを実感した。</p> <p>帰途、キビタキ、エゾビタキとともに、ようやくムギマキの姿をとらえることが出来たが、木々の間を猛スピードで飛び回るため、用意したフィールド・スコープが活躍できるチャンスはなかった。</p> <p>シラキ、ヤマザクラなどから紅葉が始まりかけている観察道の周辺では、植物にも、さまざまな見所があった。高野山で仏壇の掃除に使われる枯れ木になった3年もののコウヤボウキ。アオツツラフジの種をつぶすと中からアンモナイト状の核が出現し、不思議な気分。標高 400 m 地点ではヒヨドリバナに戯れる蝶のアサギマダラが美しい姿で楽しませてくれた。</p> <p><b>観察できた鳥たち</b></p> <p>見た <b>ウグイス、エゾビタキ、エナガ、オオルリ、カケス、キジバト、キビタキ、コゲラ、サメビタキ、セグロセキレイ、ハイタカ、ハクセキレイ、ハシブトガラス、ヒヨドリ、ムギマキ、メジロ、ヤマガラ</b></p> <p style="text-align: right;">計 17 種 (探鳥確認メモ 秋~冬)</p>	
感 想	菊水山のNTT管理車道入り口から頂上付近までだけで 156 種の植物メモを作成した、という堀池顧問が軽妙な語りを交ぜながらユーモアたっぷりに植物の世界も語ってくださった。六甲全山縦走で苦手意識を持ってしまった菊水山が非常に身近になった気がする。「バードウォッチングの現場に親しみを持って欲しい」と毎回、案内役に徹して下さる先達・先輩たちに感謝、感謝です。	



左からムギマキの牡、牡の若鳥、ムギマキの雌。牡の若鳥と雌の微妙な違いに注目 (堀池顧問提供 『フィールドガイド 日本の野鳥』から転載)

11月の定例観察会は11月5日(月)に神戸森林植物園に。詳細は近くお知らせします。下見会はありません。

